

【抄録】

今回は、3人の同世代 三重県歯科技工士会の学術担当の理事による 30分ずつのリレー講演を行います。市立病院の歯科口腔外科、歯科診療所内の歯科技工所、法人の歯科技工所、それぞれ形態の違う勤務場所での臨床経験をもとに講演します。

(三重県歯科技工士会 理事)

『病院歯科における感染症対策』 天野 計宏

『臨床レポート ～クラウンブリッジの材料について～』 山口 峰央

『3Dプリンターの臨床例報告 ～UVパターンとの比較～』 石橋 隼太

【抄録】

『欠損補綴設計と補綴構造設計で有床義歯の永続性を考える』

『デジタルデンチャーデザインを考察する』

日技認定講師 片岡 均

(三重県歯科技工士会 会長)

有床義歯を製作する場合、義歯の維持安定を図り、口腔機能が十分に発揮されるように補綴構造をデザインすることが義歯の永続性に繋がる。

有床義歯が口腔機能を円滑に発揮するためには、歯科医師と歯科技工士が十分にコミュニケーションをとり、患者一人ひとりの状況、顎関節や顎骨の構造、神経筋機構をバイオメカニズムとして理解することが重要である。

また、咬合による力のコントロールができていないデザインをすることも非常に重要である。そして、義歯製作に関わるマテリアルの精度を高めるための知識と技術も熟知していなければならない。

患者に喜ばれる義歯は生体に安全で適合性に優れ、装着感が良く、永続性があり、さらには口腔機能を崩壊させない生体親和性を有する人工口腔器官でなくてはならない。

歯科技工士は医療人であることは当然のこと、自然科学者であることも大切である。常に患者のために多くを発見し、自然の法則に適した探求心こそが歯科技工士には必要ではないだろうか。

しかし近年、歯冠修復においては、CAD/CAM冠が保険収載されたことで、多くの削り出しによるデジタル技工が一般化しつつある。

有床義歯においてデジタル化はまだこれからであるが、デンチャーデザインを3Dプリンターの活用によって歯科技工士が試行錯誤しながら適合精度を確立していかなければならないと考える。

歯科医療の発展は医療従事者の技術の向上と機材の進歩があって初めて実現するものである。そして、失われた口腔機能の回復は全身の健康に大きな関わりを持っていることを我々歯科技工士は理解する必要がある。有床義歯を製作する上で最も重要なことは、歯科医師と歯科技工士が十分に連携してデンチャーデザインを行うことである。それが口腔機能の回復と向上、永続性に繋がるということを再認識いただければ幸いである。